

(一画からつづく)

落ちた市発行の『国立新書創刊準備号』(以下「新書」)について問う。

市長 当事者めきに決めない、という人権施策は当然推進していく。

「新書」について。国立に流れている、ソーシャルインクルージョンの底辺がある。人間を大切にするという理念が、時代の変化の中で質を

高め「人権・平和・多様性の条例」まで来た。04年、被差別部落該当地域の方に差別葉書が届けられ、市報で差別を許さないという表明をした。

佐藤市長が本を読んだということは事実だが、全体像を伝えるには補強が必要。次号で国立市のソーシャルインクルージョンの歴史をまとめるので、その問題はきちっと語っていきたい。

市長 旧国立駅舎のバリアフリーは文化財と合理的配慮の共存で

上村 当事者から要望のあった、再築された旧国立駅舎の木造固定改札口のバリアフリー化を問う。

市長 合理的配慮がなされて、かつ文化財的な価値を保持できることを、来年3月ごろまでに当事者と話

し合いながら解決していきたい。

上村 居住福祉を問う

市長 ストックを活用し、住める環境をつくるための支援他を検討

上村 高齢化やコロナ禍による貧困に対処するには住まい確保が急務。国立市には住まいの政策や担当部署がない。積極的に政策研究を。

市長 国立市の住ストックは過剰。ストックを活用しながら住める環境をどうつくるか。経済的支援という金銭的支援があるが、それ以外に何ができるか今後十分検討していきたい。

上村 環境と食を守る政策を問う

市長 食のあるまちづくりのプロジェクトとして総合的に進めたい

上村 国連で近い将来訪れる食料危機と地球温暖化から農業と環境を守るために「家族農業、小さな農業の10年」を始めている。小さな農業が日本の農業再生の鍵と言われている。国立市でもそのような政策が必要と考えるがどうか。

市長 環境と食のプロジェクトチームを作った。農業振興、商工業事

業者を守る、教育、福祉、災害時、産業など、食育ではなく大きなくりの中で、総合的に進めていきたい。

今も大変疲弊している市内の事業者が、元気に活動してきつちりとしたコミュニティを作りながら、まちを底辺で支えていただく。そういう活力を維持復活していくことが最重要課題だと思う。個店を支えていきたい。

上村 市政で食を中心に考えることはなかった。ぜひ進めてほしい。

また、大量の食を作る給食センターは時代に合わない。小さい農業と同時に小さい給食が求められる。

上村 コロナ禍を乗り越えるには教育の充実が不可欠

市長 公民館は大事、「無料」を守る

上村 成人の学びを保障する社会教育として、国立市公民館は無料・無差別・先着順を掲げ、誰もが学べる教育環境を直営で保障してきた。コロナ禍を乗り越えるには教育の充実が不可欠。

市長 個人の学びは社会に還元していくものだと思うので、公民館はすごく大事だ。自分が市長でいる限りは公民館を守る。「無料」は守る。

国立市のコロナ対策から
第3定例会 質疑・議論

国立市のコロナ対策について質問。
①市民が感染者や濃厚接触者となった時に派遣できる医療・看護、介護等の専門チームをつくる。②高齢者やしょうがいしゃの施設等に10万円の感染症対策給付金を計上したが、女性支援団体にも同様の対応をする。③コロナ禍による生活困窮への支援は、民間・関係機関と協働して総合的に考える必要がある、担当組織の整備を含めて考える、等の答弁がありました。

なお、市はコロナへの取り組みについて、全部署が詳細な「振り返り」を行い30頁余りの文書にまとめ、第3定例会に報告しました。市職員が、住民との接触が困難になった中でも、真剣に状況を把握し、必要に応えようとしている様子が伺え、心強く思いました。



11月2・3日、<にたちでの開催に続き、多摩市永山で開かれた「コロナ困りごと相談会」に参加。小平の水口市議と。